

令和6年度 卒業論文要旨

学 生 氏 名	岩 崎 実 緒
論 文 タ イ ト ル	矢印の効果ー動く矢印と視線行動の関係ー
要 旨	インターネット広告の普及に伴い、広告の差別化が難しくなっているという。その問題解決のために着想されたのが、矢印の利用である。本論文の目的は、動く矢印の利用が閲覧者の視線行動に与える影響を明らかにすることであった。実験参加者は、男女大学生であった。課題は2種類あり、それぞれが実験1、実験2とされた。実験1は、ディスプレイに同時に提示された3種類の画像を自由に閲覧することが課題であった。そのうちの1つには動きの伴う矢印が提示された。実験2は、ディスプレイに提示された仮想インターネット広告を閲覧することが課題であった。この広告部分に対して動きの伴う矢印が提示された。これらの閲覧時における参加者の注視が計測された。結果、動きの伴う矢印が、特定の画像への注視時間の延長や注視回数の増大につながることを示唆された。その背景には、人の周辺視野と眼球運動の特性が関わっていることが見出された。得られた知見は、より注視される広告デザインにつながるばかりでなく、様々な社会課題の解決にも寄与する可能性を持つ。